

感がある。

(三)追憶を毀す。齒の浮くやうな會話と、をさなき筆の跡が目著く。

(四)蜜柑色づく頃。明快にすらくど書きなされけると言ふだけ。逆行的イブセン式の行き方だ新し味は無い。

(五)懷中時計。まだく精製する餘地がある、玉尙且つ瑠璃琢磨を要する。

(六)天へ通るの道。臺詞は熟してゐる。「人間畢竟は人間」の意は具象化されてゐる。結構はマアテルリング邊にもある様だ。

(七)咳。荒川と野村との經緯を面白う書いた物だ發展先づは無難。

(八)お園の死。自然主義が高唱された頃ならばと思ふ。例の性慾問題が擔がれてゐる。……小彌太短篇集に收めたい様な氣がする。

\* \* \* \* \*

\* \* \* \* \*

## 短評

八波 則吉

讀んだ順に評して見よう。――

### 一、蜜柑の實る頃

これは寧ろ童話劇、もしくは少年小説といつたやうな、無邪氣な、さらりとしたものに書いたらよかつたらう。大人物としては餘りに幼稚で讀みごたへがない。

### 二、咳

前半を讀んで、これはうまい!と思つた。ところが後半に至つて稍失望した。しかし全體として、纏つたよい作である。心理解剖のメスも利いてゐる。局部々々に大家の壘を摩するところもある。

### 三、懷中時計

やゝ冗漫な嫌はあるが、兎に角面白く讀ませる女の虚榮心がよく出てゐる。良人の無愛想もよい。無難の作。

四、鯛の頭

博多俄式だが品位がある。罪が無くて結構。筆も達者。

五、追憶を毀す

哲學書を讀むやうな氣がした。

六、喘ぐ芽生

隨筆を二つくつつけたやうなもの、これといふ暗示もないやうだ。

七、天へ通する道

大仕掛なところが面白い。そんな事になるかはら〜思はせながら、終りまで讀者を引きつける。ファウストの序幕や、青い鳥の大詰に、何處か似通つた趣がある。いづれ大作を出す素地と思ふ。

八、お園の死

背景が子飼の渡らしく、何となく事實談のやうな氣がした。それはど生き生きとした筆遣ひである。が、惜しい事に題材が淫靡で、發表は出來難からう。

## 秋 田 實

## 『懷中時計』

亡き母を紀念の大切な時計が紛失した前後を捉へてやさしい女性の心持を書いた純粹なロマンス派のもので作者獨得の境地であらう、手に入つたものだと言ける。これを一口に古いと云つて了ひたくない。時計を捜しあぐんで鏡臺の前に立つて顔をうつしてみたり、頭に手をやつたりするところ觀察周到で若い女らしい主人公の性格を納得することが出来る。時計の因縁話も利いてゐる春の川邊の散歩の挿話は感情の極端から極端へ移る時の強いショックを利用して愛着の品物を失つた心持を高調させたものとしてよろしい。子がないために夫から石女だと云つて冷い目で見られてゐる彼女が時計を拾つてくれた女の子を幻想に描いて何か知れぬ一種の愉快な亢奮を感じてゐたしかしその女の子への折角の厚情があまりに當然にしか受けられなかつたことから何となく物足ら